

## 「地理歴史(日本史探究)」の出題の意図

問題はいずれも、①日本史に関する基礎的な歴史的事象を、個別に記憶するのみならず、覚えた事実を互いに関連づけ、統合的に運用する分析的思考を経た知識として習得しているか、②設問に即して、受験までに習得してきた知識と、設問において与えられた情報とを関連付けて分析的に考察できるか、③考察の結果を、設問への解答として、論理的な文章によって表現できるか、を問うています。つまり、歴史的な諸事象について、それがなぜ、どのように起こったかということや、相互の関係や影響にかかわる、理解の深さと論理的表現力を測ろうとしています。

第1問は、律令制下における女官のあり方と、その変化を問うものです。薬子の変(平城太上天皇の変)と、それにとまなう蔵人頭の設置などが、尚侍をはじめとする女官の職務や立場にどのような影響をもたらしたのかを、その前後の状況をふまえて考えてもらうことを意図しています。

第2問は、御成敗式目の性格と分国法への影響を問う問題です。御成敗式目の条文から律令法との関係を読みとり、また分国法の条文から御成敗式目の強い影響と一部にそこから脱却する動きが生まれつつあったことを読みとれるかどうかを問うことで、史料の読解力と操作能力、法の系譜関係に関する理解力などをみることを意図しています。

第3問は、石高をつけられず、林業や林産物生産を生業とした近世の山村を素材としたものです。そのような山村が石高制下においてもった特殊性を考察することから、逆に、近世の石高や年貢、検地に関する基本的な理解を問い、山村・農村の経済生活・経済構造について考察してもらうことを意図しています。

第4問は、近現代日本の女性の働き方について問うものです。総力戦の時期から高度経済成長期においても、日本社会では、男子が主に世帯収入を得るための仕事をするべきで、女子の役割は家庭での育児や家事であるとする意識がありました。その点をおさえた上で、総力戦や産業構造の変化と国家政策や民間企業の雇用・賃金制度との関係について考えてもらうことを意図しています。